

KSKR
NO.27



発行 1998年3月
編集 クリエイトハウス
"パンジー"

新たな出会いの季節

梅の花が満開になり、日一日と春の気配を感じるこの頃です。この「パンジーだより」がみなさんのお手元に届く頃には、さわやかな春風の吹く季節になっていると思います。

去る、2月7～8日育成会主催の第3回支援者セミナーに参加しました。パンジーが育成会の集會に参加するのは初めてのことです。当事者の分科会の一つをパンジーで、という依頼を受けて「たちあがろう！ サングループ事件から考える」をやりました。今まで何回もやっているのに、メンバー達は自信を持って参加しました。実は、メンバーよりも職員の方が、日頃の実践や当事者運動の中身が育成会の人たちに厳しく検証されるという緊張感を持ってのぞんだのでした。

分科会をすすめていく中で、初めて会った当事者の人たちから、職場や家や施設で経験してきたくやしかったこと・つらかったことなどの意見がどんどん出てきました。それを聞いていて、知的障害を持った人たちの多くが障害の程度に関係なく、本当につらい経験をしてきていることを怒りをもって感じました。

育成会でも近年、当事者活動の支援に力を注ぎ始めたことを知り（今回初めて支援者セミナーに当事者が参加したそうです）、パンジーがすすめてきた共生の社会を目指す運動が主流になってきたのだと思いました。ただ、当事者活動の捉え方や、より良い支援者のあり方を巡って悩み、揺れ動いていることも感じました。パンジーのよしみさんがパネリストとして参加した支援者シンポジウムで、その捉え方の違いがはっきりと出て興味深かったです。

当事者活動とは「一人の人間として、自分の望み、地域社会で生きたいという望みをかなえていくこと」、支援者の役割とは「当事者の想いを一緒に実現すること、その中で自分自身も変わっていくこと」というよしみさんの明快な発言はパンジーの方向性をすっきり指し示して印象的でした。育成会の人たちからも、地域生活支援の重要性や、当事者活動に関わる支援者自身の生き方が問われているという発言が出て、とても共感できました。今回の出会いを新たな機会にして、活動がより豊かになっていけばいいなあとと思っています。（まめやん）

こんにちは、パンジーパンやです



パン屋では毎日、パンの配達で西へ東へリフトカーを走らせています。地域社会への関わりという意味では配達のために外に出ることはメンバーにとって大きな意味をもっています。今回はパン屋の配達メンバーを紹介しようと思います。

配達大好きな山本くん、「今日の配達はどこ？」と聞くと、「〇〇小学校、××さんマンション、市役所」等と答えます。一番に車から飛び出しパンを選びます。きっちりした性格の山内くん、パンを配達するといつの間にか一人で車に戻っています。人気者の内海くん、配達先のおばさん（失礼！）おねえさんの肩をもみ始めることもあります。紅一点はマイペースの西岡さんです。気がつくとな手の中に缶ジュースがあります。建物の関係でお目にかかれぬ配達先も多いのですが、車椅子の岡本くん、車の中で話に熱中します。同じく車椅子の梅原くん、つねに周りのメンバーに気配りをしています。……というのが主なメンバーです。

今後ともよろしく！ また、声をかけてください。 (みつよし)



クリエイティブ部門だより

園芸で育てているパンジーの苗が順調に育ち、今かれんな花を咲かせている。

メンバーの中で咲いた花といえば、久しぶりにN君がさを織りを再開したこと。彼はなかなか日常の作業には加わることができず、自分の出番をいつも模索している。しかしそれを見つけるのはむずかしい。さを織りというのは、織り機にずっと向かっているわけで、彼の興味がそこに向けられることはないように思われたが、今年になって「やってもいいよ」ということになった。

彼はおしゃれな人で、その感覚が生かされれば素敵な色相を選ぶだろうと想像していたが、果たしてその通りだった。今は1日1時間が精一杯。彼がさをりをはじめると他のメンバーもうれしく思っていることが、何となくへやの空気でわかる。一枚の織物になるまで時間はかかるだろうけど、やろうとしている彼の表情がおだやかで真剣で、それがすてきである。 (はたなか)

わくわくのページ
「相手の心を察する」と
いうこと...



1月24日、わくわく活動終了後、第五回ヘルパー研修会を開催しました。今回も、中新井先生に来ていただき、「相手の心を察する」ということについて「コミュニケーションの難しい人たちのワークショップ」と、「東大阪健康まつり」のビデオを使って考えました。

中新井先生がビデオのある場面を一時停止して、「さて、この場面でA君は、何を要求していると思いますか？ あなたが思うことを紙に書いて下さい」と言われました。みんな、最初はどのように書いてよいのか迷いましたが、この問題には、「正解」があるわけではなく、ビデオの様子を見て想像して「心を察する」練習なのだと言明を受け、行っていきました。こうやって、想像したり考えたりしたことを実際に紙に書いてみるということは、新鮮でとても楽しかったし、メンバーの気持ちや状況をどうつかんでいるのかを客観的に振り返ることができました。

次に、あるドキュメンタリー番組を見ました。妹が聴覚障害を持っているふたごの姉妹の小学校入学を巡って、お母さんは二人そろって普通学校への入学を決心し、入学式、授業と進んで行く中でいろんな問題にぶつかっていくという内容でした。とまどい、苦しむ聴覚障害の妹や、その妹と共に生きようとして悩む母親の状況を見て、もし側にいて声をかけるとしたらどんなふうにするかを書いていきました。

最後に、名前を伏せてみんなが書いたものを、中新井先生が発表しました。似た意見・感じ方もありましたが、やはり人によって関わり方がずいぶん違うものでした。僕の場合、困難な状況にいる人に対して、その人が頑張れるよう何か有効なアドバイスをしたいと思ってしまいました。でも中新井先生から、「人はこういう時には、次になにをしたらいいか、ということを知っても心に入らない。その人の気持ちを聞いてあげること、認めてあげることが大切である」という指摘が印象に残りました。

これからも今回のような参加型の楽しい勉強会をやっていききたいと思っていますので、ぜひ参加して下さい。
(まめやん)



健全者なら時期が来れば親元を離れて一人立ちする人が多いのに、知的障害者が家を出て自立する姿は町の風景の中でまだ見えてこない。なぜだろう？

もちろん自立に踏み出すには、いくつもの壁がある。障害のこと、経済のこと、介護者のことetc……。でもこれらは壁であって、自立できない理由にはならない。踏み出せない最大の理由は、本人も周りの人も「自立できる」という事実を確信できないこと、つまり挑戦してみる前にあきらめていることではなかろうか。

黙っていたらいつまでも始められない。本人が「自分の人生を生きたい。自分の思いを大切にしたい」と自信を持つことと、それが実現されることを喜ぶ支援者が増えることが何より大切だと思う。

私自身、自立メンバーの生活に関わる中で、試行錯誤しながら大切なことを教えてもらって来た。本人と支援者が、日常生活に必要な介護内容がわかり、ていねいに、着実に経験を積み重ね、本人の生き生きした感情を大切にすればそれほど気負わずに生活できるということを実感している。 (芳の)

グループホーム「あゆむ」より
ほっとあることがたくさんあるなあ



週2回、グループホームあゆむの介護に入っています。最初のころは「これでよかったのかなあ」と思うことの連続でしたが、このごろは、メンバーとの生活を楽しむ余裕ができたように思います。

あゆむに到着すると、たいていは各々が帰り道に買ってきたジュースを飲みます。すると必ず誰かが「河合さんにもあげる」と言ってコップに分けてくれます。みんなとてもやさしいのです。それから朝食の相談をして買い物に行きます。夕食に簡単な一品を作るときもあります。食後はそれぞれが自由に過ごします。このごろは、ル・クプルとかスピードのヒット曲を聴くのがはやっています。みんな折り紙やトランプをするときもあります。早めに布団に入ってしまう静かな夜もありますが、まるで修学旅行のような気分になってしまう日もあります。

私が落ち込んでいると「大丈夫、同じ人間なんやから」「気にせんでもええ、大丈夫」とはげましてくれる人もいます。みんなのマイペースぶりにとまどいながらも、それ以上に元気づけられること、ほっとすること、嬉しいことがたくさんあるなあと思う今日この頃です。これからも、どうぞよろしく。(河合)

最近、ショップの隣の
た。「次はどんな人が引
うメンバーの言葉に、シ
近隣のお店との間に色々



バイク屋さんが移転しまし
っ越してくるかなあ」とい
ショップがオープンしてから
なことがあったことを思い

出しました。ショップはすぐ隣が「社会」だという厳しさを感じながら働くところ
です。パンジーの中では受けとめることができるメンバーの感情表現や行動が、
ショップでは即、近隣から困ったこととして受け取られます。近隣からの苦情に
「くやしい」と体を震わせて涙を流しているメンバーの姿を見て、地域で暮ら
していくことの難しさを肌で感じました。

「わしはコーヒーはうまいこといられる」「コーヒーの入れ方を練習して、お
いしいコーヒーを入れる努力をしている」と、メンバーのリーダー的存在である
Iさん。「商売のルール」をお互い守りながら、ご近所さんとして仲良くやっ
ていきたいなあと思っています。

(にっちゃん)



早いもので子どもがパンジーに 通いだして1年になろうとして
います。すっかりパンジーの生活にも慣れ、毎日楽しんでいる様子が表情の中に
伝わってきます。私も厨房の手伝いをさせて頂き、同じく1年近くになり、私が
パンジーの様子を知ることで、子どもとの会話が一層ひろがったように思います。

朝、パンジーの玄関に入る私に「おはよう！」と笑顔で迎えてくれる人、遠く
から手をあげてくれる人、また体を左右に動かしながら「おはよう」を表現して
くれる人。心和む1日の始まりと嬉しくなりました。

厨房では、先輩達の愛のこもった献立に感心しました。ある日出来上がったお
かずの材料を数えてみるとなんと14品目。1日に30品目とはよく聞きますが、
その半分近くを昼食でとれていることになります。「愛のスパイス」で家庭の味
を作りたい」、まさにそのとおり愛のこもった温かいパンジーの昼ご飯なのです。

どこかで「自立することは、周りの支えを知ることでもある」と聞いたことが
あります。着実に地域に根を下ろしつつあるパンジーですが、周りの支えにさら
に感謝しながら、これからももっともっと大きく自立していくことを願っていま
す。今後とも親子ともどもよろしく申し上げます。

河野 良子

どらえもん会のページ



こんねんどの どらえもん会をふりかえって

こんねんども もうすぐおわり。2年間、おなじ顔ぶれでやってきた、どらえもん会役員会、略して「どらやく会」のメンバーは、パンジーのどらえもん会だけでなく いろんなばしょで だいかつやくでした。

そこで、こんねんど さいごの「どらやく会」で、今年をふりかえってみました。

生田：こんねんども いろいろありましたなあ。

福田：あった、あった。



どらえもん会で、どんなことしたやろ。

梅原：なつのりよこやろ。

五十嵐：静岡で おはなししてきた！

梅原：どうやって お金（給料）をふやしたらいいか、かんがえた。

五十嵐：ショップパンジーで お金がなくなって みんなではなしした！！

パンジー夏の旅行はどうやった？

肌勢：沖縄に2泊3日で、飛行機でいった。

五十嵐：どらえもん会で（旅行に）いく前に かみしばいをした。

お給料のはなしをしたけど、あれからふえたんかなあ？

全員：ふえへん、ふえへん！！（怒）

生田：また、変わった品物でも うらなあかん。ラーメンとか。梅

原：これから、どっか販売を ふやしたらええねん。

西田：服うる。

ほんじゃ、らいねんども はなしは続けていくんかなあ？

全員：がんばるわ。

「静岡で話しあう会」や、講演会の練習はどうやった？

福田：たのしかった！！

五十嵐：静岡で「元気がでるはなし」をした！

西田：りボンがあった。(福田さんの「元気がでるはなし」の衣装)

福田：講演は、「ゆーとーん」(八尾)にいったやろ・・・

梅原：学校にいった。

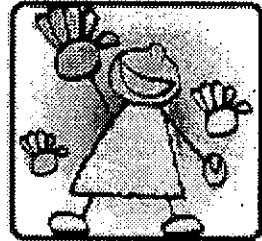
生田：寝屋川のほうとかなあ。

肌勢：奈良の・・・どっかいたなあ。

(川西町での講演のこと)

生田：あー、Tシャツうったとこや。今年も

「元気がでるTシャツはうらなあかん！」



「チョコレートのうれゆきは？」

清水：ぼくの学校な、八尾養護学校な、パンとチョコレート、かってくれたって。

平川：うーん、そうですね。

(森本レオ風に)

「らいねんど、「どらえもん会」でやりたいことは？」

西田：カウオケしたい！

麻窪：自分のことでせいいっぱいです。

生田：もっと変わったものうって、お金をふやしたい！

清水：みんなでハイキングはどうかなあ。いっかい、

役員で下見にいったらどうやろ。

梅原：腹のたつドラマが あんねん。障害者をばかにしてる。

そのこと、みんなで話しあいたい。

みなさん、本当にお疲れさまでした。

はくしゅ！！

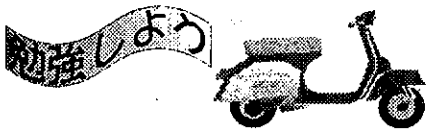
全員：いえーい！！



バチバチ



らいねんどの役員は、2年ぶりの選挙を
めることになりました。むずかしい問題やたのしい企画にとりくみ
ながら、自分たちでかんがえて きめて 実行していく「どらえもん
会」をつくって行ってほしいと思います。(たき)



パンジーでは「ヘルパー研修会」が行われており、私も講師をつとめている。与えられたテーマは「コミュニケーションの難しいメンバーとの関わりをめぐる」である。コミュニケーションは一般的には「伝達」とか「意志の疎通」とか訳されるが、私は『インリアル・アプローチ』（竹田・里見編著）で定義されている「ことばあ

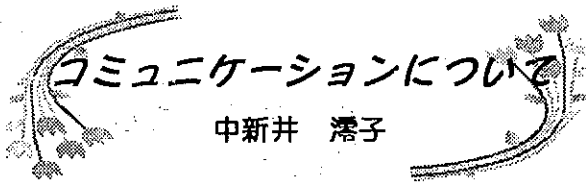
るいは他のさまざまな手段による人間相互の交

流と理解のプロセスであり、話し手と聞き手との間に交わされる伝達のプロセスを含むものである」が気に入っている。

実際、コミュニケーションの難しいメンバー（ことばの有無だけでなく）は多いが、関わる側の方はどうだろうか。ひとつの場での理解や関わりだけでなく、共有する時間や状況の経過も大事にしているだろうか。確かにことばは便利なコミュニケーション手段ではあるが、心の交流が伴わないと空虚なものになる。また、ことばに頼りすぎると真の感情や意図を読みちがえることもある。一方、話しことばを持たない人が、さまざまな手段でコミュニケーションを行っていても、聞き手側の感度が鈍いとキャッチできな

かったり、できても反応が乏しいと彼等の伝達意欲を低下させてしまう。

そこで先回の研修会では、関わる側のコミュニケーション能力を高める試みを行った。行事の一場面でのメンバーの表情や声、全身の動きから彼の気持ち、要求、意図などをどれだけキャッチできるか、VTRを見ながら参加者が発表しあった。ビデオなどの記録は、スタッフやヘルパーの力量を高める有効な手段でもあり、もっと活用してほしい。



中新井 澪子

演習その2は、テレビで放映されたあるドキュメンタリーの録画を使用

した。研修会の参加者には主人公の挫折や母親の葛藤の場面を一時停止した短い時間に、今自分が側に居るとして彼女達にかけることばを書いてもらった。日常的には瞬間に反応したり、時には気づかずにいたりすることを、時には一時停止して相手の心を見つめなおし言語化してみるのもいいと思う。

客観的には同じ状況の中にも、参加者一人一人の受けとめ方、ことばかけが大きく異なることも分かり、逆に自分を見つけなおす作業でもあったようだった。これからもいろいろなプロセスを経て、メンバー、スタッフ、ヘルパー各々が理解し合える、伝えあえる関係がぎずけたらと願っている。

新人紹介・古賀政行

1月から新しいメンバーが加わりました。少し前から、わくわく活動やショートステイに来ていたので、今ではみんなの人気者。そんな古賀くんのことをみんなはどんなふうに見ているのでしょうか？



- 男前でハンサム！たくましくって、おもしろい！（福田）
- かっこいい。「わーっ」ていう人。（西田）
- ショートステイでごはんいっぱい食べる。よくねてやる。（岡本）
- 顔が誰かににてる！ニュースの俵こうたろうさんみたい！（平川）
- ええ人。すばらしいなあ。（野畑）

人が好きだという古賀くん。彼がこれからパンジーで、色々な人がいて様々なことが起こることを見たり感じたりして、人とのつながりをつくっていったら素敵だなと思います。
(にっちゃん)

野花由美子のキューピー三姉妹物語

話を始める前に・・・

長女	梨紗	5歳	(H4. 12. 4生)	射手座	A型
次女	麻衣	3歳	(H6. 8. 29生)	乙女座	AB型
三女	唯	2歳	(H7. 11. 27生)	射手座	B型



①ちっちゃなキューピー「チョコ買って」編

ちっちゃなキューピー（唯）「お姉ちゃん、チョコ買ってえー」

おっきなキューピー（梨紗）「ダメ」

ちっちゃなキューピー「買って、買って。エーン」（泣いてしまう）

おっきなキューピー「泣くんじゃないの！」

②おっきなキューピー・ピンチ編

ちゅうくらのキューピーとちっちゃなキューピー「エーン、エーン」

おっきなキューピー「どうしたの？ よしよし（おっきなキューピー、頭をなげる）ちゃんとお姉ちゃんがここにいるからね。私がお姉ちゃんよ。遊んであげるからね。」

・・・おっきなキューピーは、5歳である。

ガイドヘルパー物語

ガイドヘルパーに、はまってしまいました

森脇 正文

ガイドヘルパーを始めたきっかけは、学校のクラスの友だちに誘われたからでした。将来は福祉のような、何か人の役に立つ仕事をしたいと思っていたので、いいきっかけだなと思いやってみることにしました。しかし、福祉に関する知識がまったくない僕はガイドヘルパーとはどんなことをすればよいのかすら分からずに、ヘルパー初日があるまでとても不安でした。

僕がはじめて行ったのは3年前のクリスマスパーティでした。始めは何をしていいかまったくわからないで、“何かしゃべらな”と思っても緊張してなかなかことばが出ませんでした。そんな僕にメンバーさんは優しく話しかけてくれて、緊張していた僕の心をほぐしてくれました。そして、その日のクリスマスパーティはとても印象に残っています。みんなのものすごいパワーにとっても驚かされました。初対面の人ばかりでしたが、一緒に踊っていると自然にみんなと溶け込めました。今まで障害者と接する機会がほとんどなかった僕は、実際に会ったら、かなり気を使ってしまう、あるいは使わなければならないと思っていましたが、そういう気持ちは一気に吹っ飛び、純粹にみんなと楽しもうと思うことができました。それからガイドヘルパーに、はまってしまいました。そして、パンジーへくるたびにみんなから元気と優しさをももらった気がします。

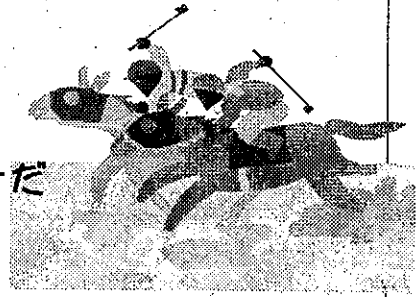


ガイドヘルパーをして僕自身いろいろな変化がありました。目の不自由な人がいると気軽に「どこまで行かれますか？」と声をかけられるようになりました。今までだったらなかなか実行できなかったことでした。また工業系の学校に行っているの、活動中に見かける車椅子やリフト付きの車などの福祉機器に興味を持ち、福祉機器の展覧会にも行きました。そして、その展覧会で出展していた会社に内定することができました。

この春から入社のためにガイドヘルパーをやめることになりました。これからはすべての人が住みやすくなるような福祉機器を作っていきたいと思っています。今までありがとうございました。

東大阪市交渉報告

もっとたくさんの人が
積極的にこういった場に出るべきだ



つばさグループとらくらくハウスは、去る12月11日(木)に東大阪市文化会館において対東大阪市交渉を行なった。私たちパンジーもつばさグループの一員として交渉の場に臨んだ。

今回の交渉では、私たちの要求書に対する文書回答が交渉の前日に出された。しかしこの回答は、昨年の回答とたいした違いはなく、肝心なところのほとんどは、「検討してまいりたい」という言葉でお茶を濁された感じがした。どうせなら(こちらにとってだが)前向きな積極性のある回答をしてくれたら、もっと交渉の時間も短縮され、お役人さんも早く帰れるのに、などと思いながら(実際行政側から設定された時間は、去年の半分である2時間であった)交渉の場に赴くことにした。

さて交渉当日、行政側の都合により、そして我々はそれに合わせる形であらかじめ決めていた要求の順番を変更して「労働」、「住宅・グループホーム」、「障害者プラン」、「作業所・生きる場」、「介護保障」の順に行われることになった。こちらの意気込みに対してのりりくったりとかわしてくるやり方はある意味行政側の交渉戦術だろう。それに乗るまいと頑張るのだが、結果的にいたずらに1項目に時間を費やしたり、怒り心頭で訳がわからなくなったりして、行政側の術中にはまったかなあと感じた。

こういった交渉事は参加して事態を変えていくよう促すことに意義があると思う。私たちの声を市政に反映させろというが、私たちの声は市政に反映するには、か細く弱々しいものに映るのかもしれない。今回の交渉でも、たくさん意見、希望などが出たが、まだ足りないかも。もっとたくさんの人が積極的にこういった場に出るべきだと感じた。

(よしたけ)

書き損じハガキ、切手(未使用)を待っています!

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか? 自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてたいと思っています。ご協力をお願いします。

ご協力ありがとうございます

<後援費を振り込んでいただいた方> (敬称を略させていただきます)

坂本吉章 大倉振興 小松崇 赤松佳代子 吉田和子 長谷川峯子 光愛病院
梶山太一 アトリエ・ホロニカ 石毛えい子 柳久子 若宮恵美 中藤加奈子
向井承子 嘉悦登 大谷強

<カンパ・寄付をいただいた方> 岸本啓子 浅田洋 西村令子 田口昭男
小松崇 青山純子 堀田隆 東徹 古田美子 大長浩 久保田卓 中浩二

<書き損じハガキをお送りいただいた方> 下農美智子 西村令子 本田實子
H・K センボン同盟明和グループ労働組合 ソニー生命保険株式会社 平石満彦
安達寛・キヨ 黒川優子 古田美子 井川友子 墳下智里 奥村貴夫 清水妙子
太田かよ子 河野豊 杉山三記雄 小松崇・裕子 山内英樹 柏田勝幸 田村崇

<外へ飛び出すためのカンパをいただいた方> 橋本幸子 長谷川峯子
梶山太一 柳久子 中藤加奈子 大谷強



パンジーのメンバーが講演に行きます!

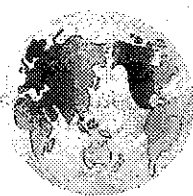
障害者も健常者も共に暮らしやすい社会について、一緒に考えませんか。学校の教師や生徒、知的障害の人々、市民講座、ヘルプー対象など、どこへでもでかけてゆきます! 詳しくはパンジーまでお電話ください。【1月・2月の実績】寝屋川東小学校/大阪府知的障害者地域生活総合支援作業部会/ゆうとおん

1998年 ピープルファースト世界大会inアラスカ

のためのカンパをお願いします。

世界中の知的障害者が集うピープルファースト世界大会に参加したい! そんな熱い想いととも、「どらえもん会」が中心となって、旅費のために貯金をはじめました。

現在はカンパや講演の謝礼などを中心にして、少しずつ貯めています。しかし、まだまだ目標には達していません。そこで、ぜひ、カンパのご協力をおねがいします。(日程が4月22日~4月28日に決まりました!)



パンジーでは後援会員を募集しています。

賛助会員	1口	1か月	500円
本会員	1口	1か月	1,000円
特別会員	1口	1か月	5,000円
郵便振替番号	00950-1-300551		

クリエイティブハウス「パンジー」

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8
クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818
"パンジー" FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会
大阪市城東区東中浜2-10-3
緑橋グリーンハウス1F・7F 企画気付